

# 米国の経営大学院における 情報教育について 1998年版 〔上〕

荒 川 昭

---

## 目 次

総論：全体を通していえること

1. 言葉の定義
2. 経営分野の各学問領域に浸透していること
3. CS と IS
4. 経営戦略との関係
5. テクノロジーという言葉
6. 研究所
7. 情報システム関連の学問
8. 先端的事項に関する研究
9. 問題の明確化
10. フルブライト委員会への謝辞とこの論文の性格
11. 電気通信その他マルチメディアの研究
12. その他

## 各論

1. カーネギーメロン大学 (GSIA)
2. ハーバード大学 (HBS)
3. スタンフォード大学 (SBA)

以下次号 (予定)

4. カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA)
5. イェール大学
6. カリフォルニア大学バークレー校
7. シカゴ大学
8. マサチューセッツ大学スローン校
9. コロンビア大学経営大学院
10. ペンシルバニア大学

あとがき

## キーワード

情報システム information systems 体系化 integration

インフォメーション・テクノロジー information technology

ゼネラル・マネジメント教育 general management education

先端的教育 most advanced education 国際的教育 international education

現物経営 operational management 経営科学 management sciences

## 〔総論〕：全体を通していえること：

### 1. 言葉の定義

IT という言葉は、まだ固定化された定説が少なく、各大学の中で、産学共同で学際的に研究しているところが多いこと、ゲスト・スピーカーも多い。

またトピックスをインテグレート／統合化する形で、学問の体系化がはかられていること。

例：

UCLA：インフォメーション・システムズ・テクノロジー

イェール大学：インフォメーション・テクノロジー，インフォメーション・テクノロジー 管理：データ管理，インフォメーション・テクノロジー管理：システム分析とシステム・

デザイン、インフォメーション・テクノロジー管理：経営と組織の問題、インフォメーション・テクノロジー管理：電気通信とその送信プロセッシング

UC バークレー：インフォメーション・テクノロジー管理

MIT：戦略情報テクノロジー

## 2. 経営分野の各学問領域に浸透していること

IT が、マーケティング、財務、会計、組織、経営計画、競争、現場経営（オペレーティング）その他経営分野の殆どあらゆる分野にすみずみまで浸透して、これらと裏腹になっており、IT の名前がついた科目は IT の実態の氷山の一角にすぎず、これらのみで判断することは非常に危険であること。

## 3. CS と IS

日本においては、主として“文系”（具体的には、経営、経済、経営情報、社会情報など）における情報教育が IS（情報システム）と呼ばれ、主として“理工系”における情報処理教育が CS（コンピュータ・サイエンス）と呼ばれているが、米国の経営大学院においては、いわゆる IS 関係では技術が不十分で、CS 関係学部から人材を支援してもらっている例がみられること（例：カーネギー・メロン）。またこの問題は、米国にとっても、コンピュータがコントローラー部門に属し、いわゆる IS 系統にあるから無縁な問題ではないこと。

## 4. 経営戦略との関係

IT が競争戦略の中核になっていること。また戦略情報システムその他戦略という名前を冠した科目が非常に多く見受けられること。また、これについては、國領二郎氏ほか、“囲い込み”経営論の立場から戦略情報システム（SIS）否定論を出しているが、事態はそう簡単ではないこと。

例：

カーネギーメロン：情報システムの戦略的利用

ハーバード：競争と戦略

スタンフォード：部門としての戦略経営，戦略的コントロール・システムズ，戦略導入管理，テクノロジーとイノベーションにおける戦略的管理，製品の管理

UCLA：情報システムの特別トピックス：戦略情報システム

MIT：戦略情報テクノロジー：戦略的優位のためのテクノロジー管理

## 5. テクノロジーという言葉

テクノロジーという言葉は，その製品の技術ではなく，インフォメーション・テクノロジーの意味であるものが大多数であり，多くの大学に見受けられること。

例：

カーネギーメロン：（インフォメーション）テクノロジー経営管理研究所，組織におけるテクノロジーの導入

ハーバード：テクノロジー管理とオペレーションズ・マネジメント，テクノロジーと現場経営

UC バークレー：インフォメーション管理

シカゴ：ゼネラル・マネージャーに対するコンピューティング・テクノロジー

MIT：戦略計画テクノロジー

## 6. 研究所

研究所が充実しており，授業を支援して，IT に関する産学共同の研究をしているところが多いこと。（関連 1. 言葉の定義）

例：

カーネギーメロン：情報ネットワークキング研究所，（インフォメーション）テクノロジー経営研究所，多方向シミュレーション研究所

UC バークレー：経営とインフォメーション・テクノロジーのフィシャー  
センタ

MIT：MIT 財務エンジニアリング研究所

コロンビア：Tele-Information 研究所

## 7. 情報システム関連の学問

情報システムの開発，同応用，同管理その他伝統的な形での，定量化された IT の授業が，多くの大学において，充実して行なわれていること。

例：

カーネギーメロン：情報システムの開発，情報システムの管理，情報システムのモデル化，情報システムのプロジェクト，情報システムの戦略的利用，情報システムの企業における活用事例

UCLA：情報システムの開発，情報システムの応用，情報システムの管理，情報システムの特別トピックス，戦略的優位のためのテクノロジー

シカゴ大学：情報システムの開発，情報システムにおける特別トピックス

コロンビア大学：情報システム，コンピュータと情報システムの管理

## 8. 先端的事項に関する研究

電子商取引・仮想商取引・電子ファイナンスやオブジェクト指向プログラミング，仮想電話技術，インターネットを使用した先端的研究が，研究所における研究の形で，理論と実務とが一体的に行なわれていること。

例：(1) 電子商取引／仮想商取引

- ・カーネギーメロン情報ネットワークング研究所
- ・カーネギーメロン双方向シミュレーション研究所

電子ファイナンス

- ・MIT 財務・エンジニアリング研究所

・シカゴ大学・コロンビア大学研究所

(2) オブジェクト指向

・カーネギーメロン

プログラミング

・コロンビア

(3) インターネット

・カーネギーメロン

・UCLA

・UC バークレー

・シカゴ

(5) 仮想電話技術

・UC バークレー

## 9. 問題の限定化

この小論は、あくまで米国の経営大学院のゼネラル・カタログ（シラバス）を調査したものであって、各授業を参観したり、それらの教科書を熟読したものではない。

しかし、それなりに全体を概観するものとしての意味があろう。

## 10. フルブライト委員会への謝辞とこの小論の性格

この小論は、日米教育委員会（フルブライト委員会）の御好意により、米国のいくつかの経営大学院のゼネラル・カタログをみせて頂き、それらをまとめたものである。同委員会に対して心からお礼申しあげる。なお、記述や表現にあたっては、できるだけ原文に忠実にするよう心懸けたが冗慢なもの、判り切ったものは省略することにした。

## 11. 電気通信その他マルチメディアの研究

電気通信その他マルチメディアの研究については、カーネギーメロン大学

の情報ネットワークング研究所をはじめいくつかの例が見られた。

例：

カーネギーメロン：情報ネットワークング研究所

情報ネットワークに関するマスター・オブ・サイエ  
ンスとその送信プロセッシング，

イエール：インフォメーション・テクノロジー管理：電気通信

インフォメーション・テクノロジー管理：データ管理

UCLA：オンラインとネットワークに基づくシステム

UC バークレー：経営とインフォメーション・テクノロジーのフィッ  
シャー・センター

コロンビア：Tele-Information 研究所

## 12. その他

なお、全体的に米国の経営大学院の授業としては、(1) 企業家精神に基づ  
くベンチャー・ビジネス (2) 環境問題が非常に強調されていた。

## 〔各 論〕

### 1. カーネギーメロン大学 (GSIA)

カーネギーメロン大学経営大学院はすでに 1992 年版 (『経営研究』第 6 巻  
第 1 号, 1992 年 9 月。今後この号をそうよぶことにする。) において述べた  
とおり, Graduate School of Industrial Administration (GSIA) と呼ばれ, こ  
この MBA の学生の約 56 % は自然科学または工学分野の学士号をもつものとさ  
れる。1992 年版で判らなかったことは, 情報関係のものとして, 次のマス  
ター関係のプログラムが用意されていることである。

- (1) 財務理論のコンピュータ化に関するマスター・オブ・サイエンス (The  
Master of Science in Computational Finance)

これは、12 カ月（3 セメスター）の MS で、財務理論において、学生に、財務、数学、統計学、それにコンピュータ・サイエンス、そして今後派生する未知の諸問題をも含めて、組合わせと基礎活動を手ほどきし、その基礎を固めるものである。

同プログラムはトップにランクされて、当カーネギーメロン大学のコンピュータ・サイエンス学部と数学部、統計学部との専門家によりなされるものである。

(2) 企業経営とソフトウェア・エンジニアリングに関するマスター・オブ・サイエンス (The Master's in Business Management and Software Engineering)

これは 20 カ月（5 セメスター）の MS で、企業経営とソフトウェア・エンジニアリングにおいて、学生に、ソフトウェアに関する設計・開発・エンジニアリングならびに導入に関する技能と経営管理上の技法を提供することを目的として企画されたものである。

このプログラムは、当大学の経営学部とコンピュータ・サイエンス学部が、共同して提供するものである。

(3) 土木工事と経営管理に関するマスター・オブ・サイエンス (The Master of Science in Civil Engineering and Management)

これについては、本項と直接関係が少ないので略することにする。以下同様。

(4) 環境工学と経営管理に関するマスター・オブ・サイエンス (The Master of Science in Environmental Engineering)

(略)

(5) 情報ネットワークに関するマスター・オブ・サイエンス (The Master of Science in Information Networking)

このプログラムは、1989 年秋から開講されたものであって、企業経営、コンピュータ・サイエンス、電気通信ならびにデータ通信における諸トピックスをインテグレート／統合化したものである。このプログラムは、当経営学部、工学部、コンピュータ・サイエンス学部によって共同して提供されるものである。



- (6) 法学修士に関する当学部とピッツバーグ大学法学部が共同で提供するプログラム (The JD/MSIA Dual Degree・GSIA and University of Pitts burgh School of Law)

(略)

- (7) 民間企業と官公庁の政策に関するプログラム

(略)

その他として、博士課程のプログラムに関する次のものがある。

- ・会計学 ・経済学 ・財務理論 ・インフォメーション ・サイエンス
- ・生産管理システム ・マーケティング ・オペレーションズ ・リサーチ
- ・行動科学理論 ・政治と国際経済

そのほか、同学部の研究センターとしては、次のものがある。

- (1) 国際経営における応用研究に関するカーネギー／ボッシュ共同研究所  
(Carnegie Bosch Institute for Applied Studies in International Management)

(略)

- (2) 情報ネットワーキング研究所 (Information Networking Institute)

これについては、1992 年版で紹介したとおり、1989 年にカーネギーメロン財団とベル地域電話会社の研究技術コンソーシアムであるベル・コアとの連携によって設立された。公衆電気通信網，専用網，自営網 (LAN 等を含む) により情報を邁進し，企業経営を操作するものである。諸分散された地点から情報検索を行なうものであつて，音声，データ，文字，映像／画像，ビデオ等のマルチメディアにおいて双方向にコミュニケーションを行なうものである。

同研究所は，コンピュータ・サイエンス，電気工学，通信工学ならびに企業経営政策研究の観点から，学生に訓練を行なうものであつて，当経営学部，工学部，コンピュータ・サイエンス学部と密接に結びついている。主たる研究は，ネットワークに基づく商取引，マルチメディアの高速ネットワーク，携帯用システム，分散システムにあてられている。

(3) (インフォメーション) テクノロジー経営管理研究所 (Center for the Management of Technology)

この研究所の目標とするところは、組織において、新しい（インフォメーション）テクノロジーと新しい情報システムの管理のやり方に貢献するような情報を開発することにある。情報は、新しいコンセプト、理論、評価と分析の用具の形によって、新しいテクノロジーの管理を支援するものである。同センターでは、諸企業と共同して、問題のあるエリアを確認し、これらエリアの研究を実施し、その成果を社会に普及させることにある。同センターでのテーマの実例をあげると、新製品設計の決定、インフォメーション・テクノロジー導入、リアルタイム意思決定システムの設計、（コンピュータの）顧客満足度改善、CIM（コンピュータ統合生産）におけるスケジューリングなどがある。

(4) 財務分析と証券取引に関する研究所 (The Center for Financial Analysis and Securities Trading)

(略)

(5) 双方向シミュレーション研究所 (Center for Interactive Simulation)

現在同研究所は、3つの主要プロジェクト・経営ゲームのリエンジニアリング、・商取引のための「ソフトトレード」(Softtrade：研究所における名稱)の普及と拡大、・合衆国空軍プロジェクト（これには意思決定における cognitive work-load が含まれる）を中心に、研究をすすめている。

(6) 財務市場のための研究所 (Center for Financial Market)

(略)

(7) 政府の政策研究に関する研究センター (Center for the Study of Public Policy)

(略)

(8) 戦略開発に関する研究所 (Institute for Strategic Development)

(略)

(9) 緑の設計に関する研究所 (理想問題研究所) (Green Design Initiative)

(略)

最後に、情報と密接な関係のある授業科目をあげると次のとおりである―  
但し、情報という文字が書いてなくても、その実体がコンピュータ処理によることに注意しなくてはならない―。

(1) 第一年度／第 2 年度

企業組織における人間の行動

ビジネス・コミュニケーションズ

(2) 選択科目

・財務計画システムズ

◎・マネージメント・アカウンティング・アンド・コントロール・システム

・財務計画システム

・口頭コミュニケーションの管理

◎・コンピュータによる経済学 (computations economics)

・企業電気通信ネットワーク (これは、1992 年版では、電気通信の経営管理となっていた)

・データベース管理

◎・電子市場

・エキスパート・システム

・企業とコンピュータ・システムへの人間的側面 (インターフェイス)

◎・経営におけるインフォメーションとコミュニケーションのテクノロジー

・情報資源の管理

・情報システムの開発

◎・情報システムのモデル化

◎・情報システムのプロジェクト

・人工知能 (AI) 入門

・情報システムの管理

- ◎・企業経営のためのオブジェクト指向プログラミング
- ◎・コンピュータ産業における企業構造，戦略ならびに技術革新
  - ・情報システムの企業における活用事例
  - ・情報システムの戦略的利用
- ◎・コンピュータ産業における技術の開発，製造およびマーケティング
- ◎・組織におけるテクノロジーの導入
- ◎・企業における電気通信（これについても，1992年版では電気通信の経営管理となっていた）

（注）◎印がついたものが，1992年版と異なるものである。

結び：

（1）マスター関係のプログラムには，

- ・企業経営とソフトウェア・エンジニアリングに関するマスター・オブ・サイエンス
- ・情報ネットワークに関するマスター・オブ・サイエンス
- ・財務理論のコンピュータ化に関するマスター・オブ・サイエンス

があり，

（2）さらにドクター関係では，インフォメーション・サイエンスがあつて，依然として情報とコンピュータ関係の地位が大きく，

（3）また研究所としては，情報ネットワーキング研究所，テクノロジーと経営管理研究所，双方向シミュレーション研究所があり，さらに前進しており，

また，

（4）授業科目としては，・電子市場・経営におけるインフォメーション・テクノロジー・企業経営のためのオブジェクト指向プログラミング・コンピュータ産業における諸経営の問題があり，

最近の世界的なITに関する情勢を大きく反映している素晴らしいものといえ

る。<sup>注1)</sup>

## 2. ハーバード大学 HBS

ハーバード大学経営大学院では、MBA を取得するに際して、第1年次において次の4つのコース、第2年次において次の5つのコースをそれぞれ履修しなければならない。なお、第1年次においては、企業内の現場問題、第2年次においては、より大きな対政府関係、環境問題、国家経済問題に焦点が当てられている。

第1年次：①財務報告とコントロール

②リーダーシップと組織行動

③マーケティング

④ (インフォメーション) テクノロジーとオペレーションズ・  
マネージメント (現場管理)

第2年次：①企業、政府ならびに国際経済

②競争と戦略

③財務

④ゼネラル・マネージメント

⑤折衝 (ネゴシエーションズ)

これらのうち、情報と特に密接な関係をもっているのは、第1年次の①と④と第2年次の②であり、それらを中心に説明する。

### (1) 財務報告とコントロール (第1年次の①)

会計は如何なる企業にとっても、その経済状態を伝える最も重要なコミュニケーションのチャンネルである。この授業においては、学生が企業のつくり出す製品と諸サービスのコストについて、意思決定の複雑さと情報の利用の仕方と、経営陣と経営者のアクティビティについて、調整と動機づけと評価方法を習得することになる。それにより、如何に現代の「企業とコントロール」理論が、企業の経済活動を評価し、企業の意思決定に使用されているか

について習熟することになる。

## (2) (インフォメーション) テクノロジーとオペレーションズ・マネジメント (第1年次の④)

(インフォメーション) テクノロジーと要員とオペレーティング・システムを効率的に統合化することは、企業のリーダー達の直面している最も重要な問題である。競争で優位に立つためには、リーダー達は、製品の製造、サービスの創出という複雑なプロセスを十分に理解しなければならない。それと同時に、競争における差別化をつくりあげるためには、(情報) システムはたえざる改善を必要とする。そのためにこのコースでは、次のようなトピックスを扱う。・プロセス分析・クロス職能部門／クロス企業統合化・製品開発・(インフォメーション) テクノロジー・オペレーティング戦略

なお、これには、自動車産業のジャスト・イン・タイムその他が含まれる。

## (3) 競争と戦略 (第2年次の②)

このコースでは、競争において優位に立つための技能－製品ミックスの性能比較、職能部門の企業活動、顧客へのすぐれたサービスその他－の戦略を定型化 (formulate) するものである。学生は、企業、競争業者、競争行動の予測を深く理解し、競争優位の地位を如何に保つかを学習することにより、このような技法を習得する。特に・競争上の地位・その基礎になる原価比較・人材のひき抜き (cannibalization) ・ネットワーク拡大・グローバリゼーションなどのトピックスに焦点があてられている。

## 第3年次および第4年次：選択科目

第3年次および第4年次の選択科目は、財務数量技法から企業家精神に基づくマーケティングに至るまで広汎で多数あるが、そのうち情報と特に密接なものは次のとおりである。

### (1) 財務分析を用いた企業分析とその評価

・財務報告についての企業の意思決定の中核要素としての情報分析

### (2) 組織の調整、コントロールならびにマネジメント

動機づけ、情報ならびに意思決定、その他による分析

(3) 企業財務管理

(4) 企業戦略

(5) 「競争と戦略」コース

・情報化時代における競争

(6) 経営一般理論

①情報化時代における競争

②情報化時代における経営

(7) (インフォメーション) テクノロジーと現場経営

①インフォメーション・テクノロジー (現場事例研究)

②イノベーション管理 (現場事例研究)

(8) 現場事例研究

①インフォメーション・テクノロジー

②戦略の定型化

③ (インフォメーション) テクノロジーと現場経営

大学院全体としてのキーイニシアティブ (鍵となる動機づけ)

(A) 国際的な展望 (International Perspective) (B) 企業家精神 (Entreneurship)

(C) インフォメーション・テクノロジーと電子機器による学習 (Information Technology and Electronic Learning) がそれであり、さらに「サイバーポジアム 1997 (Cyberposium1997) が開かれている。特に (C) については、「今日 IT が、企業経営のやりかたに、未だ例をみないその差別化の度合をつけているので、HBC では地域社会のインフラストラクチュアと共力して、それを利用し、学習効果を高めるようにしている。

まとめ：

ここで、ハーバード経営大学院の情報教育の特色を簡単にまとめてみると、第1に、経営学の諸分野の中で、特に現場経営（オペレーションズ・マネジメント）と競争戦略その他と一体的に行なわれていることである。

第2に、アンソニー、ディアデン以来伝統的に管理会計と財務の情報処理への影響の強い大学で、前述「財務報告とコントロール」、「財務報告を用いた企業分析とその評価」、「企業財務管理」等にもそれがあらわれている。

第3に、この小論では余りふれていないが、前述「インフォメーション・テクノロジーと現場経営」、「現場事例の研究」で、筆者も使用しているマックファーランその他による『企業情報システムの経営』で、実に多くのインフォメーション・テクノロジーの事例研究が、行なわれていることである。

第4に、さきのキー・イニシアティブにみられるように、地域社会と協力して、インフォメーション・テクノロジーを用いた学習方法を行ない、効率化をはかっていることである。<sup>注2)</sup>

### 3. スタンフォード大学

スタンフォード大学経営大学院では、現在、会計、財務、一般経営と学際的学習、人的資源管理、マーケティング、国家経済学、組織行動、戦略経営、現場経営と情報と（インフォメーション）テクノロジー、企業家精神、国際政治、リーダーシップ、政府の管理運営など12の部門に分れて、約130の科目の授業がなされている。そのうち、情報と特に密接な関係のあるものは、次のとおりである。

#### (1) 会計 (Accounting)

##### ①財務ステートメント情報の評価 (Evaluating Financial Statement Information)

この授業においては、会計の情報を、企業の意思決定者の外部要因（例：設備投資家、借入金の貸出主）との関係に、特に重点をおいて講義を行なう。そうすることによって、企業の問題解決、企業の価値（その有価証券の価値）、有価証券の利回り、有価証券のリスクなどを評価する。

##### ②マネージメント・システムズ (Management Systems)

この授業の目的は、大規模で複雑な企業において、・計画とコントロール・オペレーションに使われる情報と評価し、・いろいろな“経営計画とコント



ロール”の諸案を評価し、戦略計画に含まれる計画とコントロールのための新しいシステムを設計することにある。

重点が、(A) 企業所有者、設備投資家その他から経営を委託された経営管理者が、その資源を配分するための情報ニーズ、(B) 彼等の達成成果の評価、(C) 個人と企業目的を達成するための動機付けと行動科学上の問題を評価することにある。

### ③戦略的コントロール・システムズ (Strategic Control Systems)

この科目においては、現場管理、製造、マーケティング、流通、インフォメーション・テクノロジーの情勢変化が、戦略的コントロールシステムの設計に如何に影響しているかを分析するものである。次の諸点を重点的に学習する。・戦略的コスト分析・顧客の満足度・不断の改善・ジャスト・イン・タイム・フレキシブル生産・外部とのベンチマーク比較・生産性・品質管理・イノベーション・製造システムの設計・インセンティブ

## (2) 戦略経営 (Strategic Management)

### ①戦略導入の管理 (Managing Strategy Implementation)

今までの伝統的な経営管理に関する学説は、経営戦略は導入とは別個とするものであった。この科目では、この考えかたに挑戦して、ゼネラルマネージャーの仕事が如何になさるべきか、それか如何に成さるべきかの双方向の関係を調べる。

このコースは、ラインマネージャーの日々の活動と戦略開発を統合化することを目的とするものである。トピックスの中には、企業とビジネスレベルにおける戦略計画のプロセス・戦略を支援する組織構造と内部システムの変革・投資回収プログラムの設計・外部委託と企業設立 その他多数の項目が含まれる。

### ②情報処理産業における戦略とアクション (Strategy and Actions in the Information Processing Industry)

このコースは、競争が激しく、発展した 1980 年代、1990 年代における高度に相互関連化された情報処理産業について学習するもので、(a)・企業レベ

ル（企業戦略）(b) 企業内レベル（如何にして、企業戦略が開発され、それが実施に移されたか）(c) 企業内細分化レベル（半導体やパソコンレベル）(d) 企業間レベル（半導体やパソコンの企業間交信）などを分析するものである。

③（インフォメーション）テクノロジーとイノベーションにおける戦略的管理 (Strategy Management of Technology and Innovation)

この科目は、企業における、経営戦略に基いたイノベーションを調べるものである。このコースでは、学生に、企業においてイノベーションのプロセスが如何にして生じるかコンセプトフレーム、ワーク、経験に焦点をあて、フレームワークそして経験を習得させるものである。その後における戦略の変化と戦略が有効に管理されたかが、その目的である。

(3) 現場経営、情報とテクノロジー (Operation, Information and Technology)

①製造のフラット化とサービス現場経営 (Lean Manufacturing and Service Operations)

この科目の提供するところは、在庫管理、製品計画そして貢上高のモデル化に関する、多種多様な話題への序論である。

聴講する学生にこれらの共通的基盤にぶっつけ出すことが目的である。

②（インフォメーション）テクノロジーの管理：

新製品／プロセスの開発 (Technology Management : New Product / Process Development)

この科目の重点は、(ア) 企業の競争的基盤である（インフォメーション）テクノロジーの開発 (イ) 既存の企業におけるかつ出発点における製品とプロセスの役割 (ウ) 開発プロセスの設計、(エ) 競争的機会の決定 (オ) 新製品／プロセスの管理である。

③製品の戦略 (Managing Strategy)

この科目は、製品設計、製品流通、サービスならびにリサイクリングに重点を置くものである。

目的は、(ア) 経営と現場管理の役割 (イ) 製造の戦略を形づくる戦略決定

(ウ) これらの決定を導入する経営の選択案 (エ) これらが競争上の利益をつくり出し、維持できる企業の職能部門の諸分野における意思決定にある。

まとめ：ここで、スタンフォード経営大学院の情報教育の特色をまとめてみると、同大学院の特色は、“製造業の重視”、“グローバリゼーション” またシリコンバレーに近いこともあり、“先端テクノロジーへの関心の高さ”であるといわれている。

- (1) まず第 1 の“製造業の重視”は前述の 12 の部門のうちの「現場経営と情報とテクノロジー」、それに科目としてのマネージメント・システムズ、戦略的コントロール・システムズ、戦略導入の管理、簡素化された製造ならびにサービスオペレーション、テクノロジー管理、製造戦略、製造のフラット化とサービス現場経営、テクノロジー管理：新製品／プロセスの開発、製品の管理その他に
- (2) 次に第 2 の“グローバリゼーション”については、前述の 12 の部門のうちの「国際経営」などに、
- (3) 第 3 の“先端テクノロジーへの関心の高さ”については、前述の、情報処理産業における戦略とアクション、テクノロジー管理、テクノロジーとイノベーションにおける戦略的管理その他に見ることができ、これまた素晴らしいものといえることができる<sup>注3)</sup>。

## 注

注 1) Carnegie Mellon Graduate School of Industrial Administration, GSIA, The Master's Program 1998 より

注 2) Harvard Business School 1997 より

注 3) Stanford MBA Program 97-98